

東京2020オリンピック・パラリンピックの各プログラムに基づく取り組み

公明党
青木 健 議員



質問 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に際し、大会の機運醸成や大会後のレガシーの創出を目的とした「東京2020参画プログラム」や、将来への貴重な学びを得ることを目的とした教育プログラムなど、さまざまなプログラムに基づく活動が展開されている。本年は開

催の前年となるが、各プログラムに基づく取り組みの実施状況と今後の取り組みについて伺う。

市長 福生市も「東京2020参画プログラム」に取り組んでおり、福生市民総合体育大会等もこの参画プログラムに位置づけている。オリンピック・パラリンピックという世界最

大のスポーツの祭典を子どもたちの心に感動体験として残したいとの思いから、今後、子どもたちの競技観戦を実現させたい。また、来年は福生市が四五都市連絡協議会の開催市となる予定であり、協議会のスポーツ交流事業として、3市の子どもの競技観戦も考えている。



▲福生市総合体育大会の様子

文化遺産の保全と継承について

正和会
幡垣 正生 議員



質問 福生市には古くからの貴重な文化遺産が多く残されているが、それらの保全と継承にどのように取り組むか。

教育長 市では文化財総合調査を実施し、文化財や伝統技術の所在確認、内容の調査を行っている。これにより発見、確認された資料は福生

市登録文化財として登録、中でも貴重なものは福生市指定文化財として指定し、保護普及を図っている。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた福生市の取り組み

質問 東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、福生市でもスポーツに対する機運が高まっている

が、市の取り組みについて伺う。

教育長 平成31年度は、特に東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成を意識した取り組みが必要と考えており、ブラインドサッカーの公式戦の観戦や体験教室を開いたり、補助金を活用したグラウンドの人工芝化等を実施する。



▲グラウンドの人工芝化を実施する市営競技場

子ども一人一人を大切にすまちづくりについて

生活者ネットワーク
三原 智子 議員



質問 全ての方が子どもの権利を理解し、また子ども自身も理解して、虐待を防いだりSOSを発信しやすくするための市の取り組みを伺う。

市長 子ども自身に人権を学んでもらう機会や、子どもが自分の意見を表明する機会として、青少年の意見発表大会や子ども議会などを開催

しているほか、子どもがSOSを発信しやすくするチラシを児童・生徒に配布し、周知を図っている。

質問 子ども自身に人権を学んでもらう取り組みとはどのようなものか。また、放課後児童対策と子どもの権利について伺う。

企画財政部長 人権啓発事業とし

て、小学生を対象に子どもからの人権メッセージ発表会や人権の花運動を、中学生を対象に中学生人権作文コンクールを実施している。

子ども家庭部長 児童の権利に関する条約等を理解し、主体性・自主性・社会性等の向上が図れるよう、放課後児童対策を行っていく。



▲人権の花運動で小学生が作成した標語

特定健康診査、特定保健指導で得られる効果について

正和会
武藤 政義 議員



質問 健康の維持管理はとても大切であるが、特定健康診査を受診することでどのような効果が得られるか伺う。

市長 生活習慣病の発症前の段階であるメタボリックシンドロームの疑いや、その予備軍を早期に発見できるほか、特定保健指導を受けるこ

とで、生活習慣における課題を改善し、生活習慣病の重症化や合併症の発症を予防することができる。

空き家の状況について

質問 全国的に少子高齢化が進み、空き家は増加傾向にあるが、福生市の空き家の状況を伺う。

市長 平成25年の住宅・土地統計調査によると、空き家は3,790戸、住宅総数に対する空き家率は12.7%で、近隣市町と比較すると空き家率は高いが、特定空き家等はなく、空き家に起因する諸問題はまだまだ多くない。空き家の放置により周辺環境が悪化しないよう、注視したい。



▲特定健康診査、特定保健指導利用の手引き

都市農業の活性化について

市民派クラブ
田村 正秋 議員



質問 都市農業は、新鮮で安全安心な農産物の提供のほか、良好な景観や防災空間等の多面的な機能を有するが、福生市の都市農業活性化に向けた取り組みについて伺う。

市長 福生市都市農業活性化支援事業補助金交付要綱や福生市都市農地保全支援プロジェクト補助金交付

要綱により、農業経営の基盤強化や農地保全を図っているほか、生産緑地の下限面積を300平方メートルとする条例改正等を行っている。

プチギャラリーを活用した作品展等について

質問 市内には多くの画家等がいるが、プチギャラリーを活用し、新

たな作品展や企画展を開いては。

教育長 プチギャラリーの第1展示室は、文化芸術作品の発表の場として人気がある。まずは市民や団体の成果発表の場として活用し、教育委員会主催の収蔵美術品の展示会は、年に一度の開催を基本に実施して、文化芸術の振興に努めたい。



▲プチギャラリーで開催された収蔵美術品の展示会

現在の福祉バスを見直し、市内循環バスに発展させる時期が来ている

日本共産党
池田 公三 議員



質問 福祉バスは平成22年から本格運行されているが、市内循環バス（コミュニティバス）は、以前から要望はあるものの、導入に至っていない。誰でも乗れる市内循環バスの必要性について改めて検討すべき時期に来ているのではないかと伺う。

市長 福祉バスと市内循環バスは

全く違う。費用に見合う十分な効果が得られないため市内循環バスの導入は困難だが、高齢者や障害者に対する福祉施策として、市独自の福祉バスを運行している。

質問 福祉バスと市内循環バスの対象が違うのは承知しているが、実際に転換した例もある。どのような

効果があれば、費用に見合う十分な効果と言えるのか。

企画財政部長 十分な効果の判断として乗車人数がある。維持管理費との兼ね合いで乗車人数が少ないバスを動かさないとの判断があり、市内循環バスではなく、交通弱者対策として福祉バスを運行している。



▲高齢者や障害者等に対する福祉施策として運行している福祉バス